

[様式 2]

提案書	
技術分野	⑤地下水流入抑制の敷地管理（遮水壁、フェーシング等）
提案件名	既存ボルト組立式タンクのフェーシング
提案者	清水建設株式会社
<p>1. 技術等の概要（特徴、仕様、性能、保有者など）</p> <p>現在、福島第一原子力発電所では、汚染水を貯留する既存のボルト組立式タンク（以下、『ボルトタンク』と示す）は、リプレースが計画されているが、リプレースまではまだ時間を要すると考えられ、ボルトタンクの設置ヤードをフェーシングして、ボルトタンクの設置ヤードへの降雨を防止することは、万が一ボルトタンクから漏水が発生した場合の早期発見および、汚染水と降雨を分離することが可能となる。そこで、ボルトタンクの設置ヤードに大屋根を設置して、ボルトタンクへの降雨を防ぐこと（ボルトタンクのフェーシング）を提案する。</p> <div data-bbox="580 779 992 1014" data-label="Image"> </div> <p style="text-align: center;">図 ボルトタンクの大屋根架設によるフェーシング概念図</p> <p>本工法の施工方法としては、ボルトタンクに設置している歩廊を撤去し、ボルトタンクの周囲に枠組足場を架構した後、屋根となる仮設トラスを片側からスライドさせながら上部に架設し、仮設トラスを鋼製折板で覆う。必要に応じて側部は防音パネルを設ける。なお、アンカーやワイヤー等を基礎に固定して浮き上がり防止対策を講ずる。</p> <p>本工法の特徴は、以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ タンクおよびコンクリート基礎への降雨を概ね防ぐことが可能。 ・ タンクまわりにはスペースがあるため、タンクの点検、メンテナンスの作業性が良い。また、型枠足場を利用してタンクの外周全面の目視チェックができる。 ・ 積雪に耐えうる構造にできる。 <p>大屋根を設置した範囲の周囲には排水溝やピット等を設けて雨水以外は流入しない独立した経路を構築して、この範囲の雨水のみを集水させることとする。</p>	
<p>2. 備考</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 開発・実用化の状況（国内外の現場や他産業での実績例、実用化見込み時期を含む） 同様の構造の実績有り。 ・ 開発・実用化に向けた課題・留意点 ・ その他（特許等を保有している場合の参照情報等） 	